

陳 情 文 書 表

受 理 番 号	陳 情 第 3 2 号	
件 名	放射能汚染（セシウム）汚泥が野積保管される「東港物流団地」及びその開発検証と拠点港湾政策について	
要 旨	<p>大型開発事業新潟東港物流団地開発は企画調査から笹山土地区画整理組合の発足と用地分譲まで深くかかわって小川竹二旧豊栄市長が主導した直轄開発事業である。</p> <p>地方公共団体が私的団体へ全面的に支援することはその運営一切が透明性を持って説明されなければならないが、元・現北区長等は一切の説明を頑として拒否する。</p> <p>ゆえ、当陳情の主張根拠は新潟市及び新潟県の公開交付資料に基づいたものであり、特に次記疑義事項はその根拠を慎重に精査して問題提起した。</p> <p>－市民の監視にはおのずと限界があるから、議会が持てる調査権を駆使した検証を行い、戦略的で高い効率の港湾事業投資が行われるよう提言する。</p> <p>なお、財政破綻してIMFの監視のもと、徹底した削減と集中投資で世界有数の物流港湾に成長した隣国に比し、その隣国の隣国港湾政策の混迷はとまらない。</p> <p>新潟県商工労働部は新潟FAZ整備計画を推進して国際物流センター整備協議会を発足、意を同じくした小川竹二旧豊栄市長は東港物流団地開発に着手、基本調査等各種契約締結を済ませ、用地21ヘクタールの地権者67名による笹山土地区画整理組合の設立を目前にして、県側に用地購入の確約を迫る。</p> <p>しかし、景気回復のおくれ及びFAZ制度の疑問等により参画企業が当初の86社が30社に減り、さらに2社に激減した現実を目の当たりにして新潟県は驚愕。</p> <p style="text-align: right;">（裏面につづく）</p>	
付 託 年月日 委員会	平成 23 年 12 月 7 日	文教経済常任委員会
受 理	平成 23 年 12 月 2 日	第 4 9 0 号

当然に平山征夫前知事は小川旧豊栄市長に対して計画構想の延期見直しを提言するが、小川竹二旧豊栄市長はその要請を理解せず、「市街化編入作業は今時点ではとめられない」「相続税が大幅に上がる地権者がいる」と抗議し、「私はおくらせないでやる」と拒絶、その独善的決断で開発業務が続行され、早々に準工業地域の市街化編入に至る。

所管庁の現北区長は旧豊栄市の土地開発事業の介在程度について、「市は行政事務として指導した」と返答し、一切の日常業務実態は話さない。その透明性のない対応と相まって、行政裁量権を逸脱した不当な「主導的」介在は否めず、市・県民全体に膨大（14億円）な不利益を課したものと思慮する。

総額1,890万円の用地測量等基本調査情報資料を区画整理組合に無償供与。

新潟東港物流団地開発を主体とした東港開発室、9年間の人件費（概算）、専任職員4人×年間500万円×9年間＝1億8,000万円。

組合の総会は13回開催され、すべて3～4名出席、役員会も63回開催されてすべて3～4名出席、評価委員等の役員や業務委託契約にも関与し実質運営主導。

市と県の開発関与と保留地の取得を条件とした先行業務代行契約をスーパーゼネコンの鹿島建設（株）と契約、契約金は9,300万円。

県側に対し「贈与税を払って準備した人もいる。結果相続税が大幅に上がる地権者がいる」「準備組合では1億円弱借りて委託契約した」など小川竹二旧豊栄市長が県知事等に直接、強硬で執拗に用地購入を要求する。県は5.5ヘクタール取得。

その土地代金16億円の取引は、自治体から自治体への土地転がしに類似。

市も用地を5,000坪、金5億円で取得、公金支出は上記概算合計額7億円。

物流団地の用地購入の必要性を、商工労働部はCFS移設を強硬に主張する。（埠頭施設から遠く、利便性が悪く現在に至り利用の案はない。）

小川竹二旧豊栄市長から強硬な要求を受け、商工労働部ほか県所管の説諭に屈した新潟県知事は、分譲用地16ヘクタールのうち3分の1に当たる5.5ヘクタールを16億8,000万円で購入する。

（次項につづく）

陳情第32号

知事が最後まで懸念した「使用目的が明確でない土地の購入」と同じ指摘を、後日の外部包括監査で指摘される。現在は水道浄化セシウム汚泥置き場。

その取得用地の利用主体である第三セクター（株）新潟国際貿易ターミナル（社長，磯部春昭元副知事）は、土地を購入した後、その利用，活用，運用などの検討を全く行っていない。ゆえ、単に土地の取得が目的であったものと疑義される。

専務職には前労働委員会事務局長，前企業局長，前県議会事務局長などが歴任している。

商工労働部長，産業立地課長は当時の時限立法（F A Z）制度が3年を残して「原則廃止の決議（平成15年7月18日参議院本会議）」が決まったことを知らないものであった。外部監査報告に不知を把握した評価は認められない。